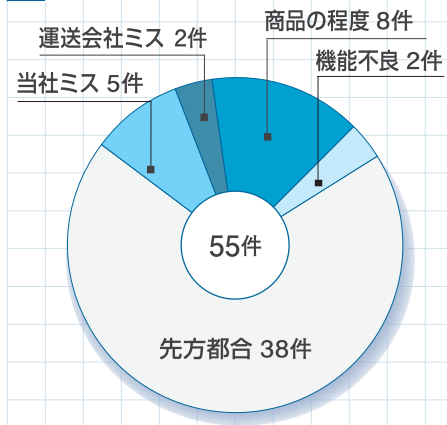


リポートニュース

平成25年5月号 No.132

バブル崩壊の数年後からリサイクル業界は右肩上がりの顕著な成長期に入りました。人が集まらない3Kの職場からの脱出を図る為に作業環境を改善、作業員の福利厚生なども手厚くして自動車好きの若者を呼び込み、活況のある業界に変ぼうを遂げつつありました。そしてH17年、自動車リサイクル法が施行され、これまでのマイナーな業界が一気にメジャーな業界に踊り出しました。今年度は自転車保険料の改定があります。「自損事故の修理にリユース部品の活用を積極的に進めよう」といった気運の高まりが、業界内外から聞こえています。リサイクル業界の正念場ともいえるチャンスがやってきました。

前月のクレーム 集計報告



●自社主力商品別クレーム (輸出版売はノークレームのため対象外です。)

商品別クレーム	件数	クレーム率	内 訳	
バンパー	1件	1/1507	0.07%	歪みがひどく取付困難 1件
フード	1件	1/330	0.30%	直すのに手間がかかる
フェンダー	4件	4/913	0.44%	新品再塗装品はがれ、再塗装品 各1件 直すのに手間がかかる 2件
ライト類	3件	3/1412	0.21%	光軸受けツメ欠け 1件 機能不良 2件
グリル・ドアミラー	0件	0/377	0.0%	
計	9件	9/4,539	0.19%	

(自社のクレーム発生率 0.75%以内を目指しています。)

※確かな部品をお届けするためには、車検証情報と現車の特別仕様情報が必要です。

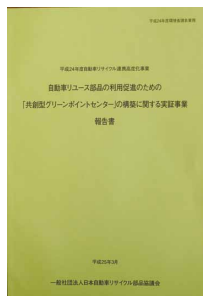
■H24年度 自動車リサイクル連携高度化事業

自動車リユース部品の利用促進のための「共創型グリーンポイントセンター」の構築に関する実証事業の報告書が出来上がりました。

- ・リユース部品の利用拡大により 3 者の関連業者には、それぞれのメリットが見込まれます。
 - ①リユース部品供給業者：販売量拡大による売上げ増
 - ②損害保険業者：修理費用の低減による収益の改善
 - ③整備工場：新品部品と比較した際の利益の増加
- ・それで利用するエンドユーザーにもメリットのある仕組みを作ろうといった提案です。

保険修理時にリユース部品を活用した一般消費者に対して、リユース部品の CO₂ 削減効果に応じたインセンティブをクオカードなどで還元、付与するものでその源資はリユース部品の供給業者、損害保険業者、整備工場の三者で出資してゆこうという取組です。

- ・近い将来こうしたシステムが構築され、リユース部品の活用が増える事を期待しております。



■最新 盗難カーナビの流通防止策 警察と仕組み構築!

- ・パスワードを設定した DOP カーナビ (ディーラーオプションの略) はバッテリーターミナルを外したりした場合、再起動時にパスワードを入力しないとナビは使用できません。
- ・インターネットなどで中古カーナビを購入したユーザーが車両に装着して使うにはパスワードの解除を販売店に依頼する必要があります。
- ・トヨタが運用始めたシステムは、07年以降に発売された DOP カーナビが販売店に持ち込まれ、ユーザーからパスワードの解除依頼を受けた際には、カーナビのシリアルナンバーを警察から毎日提供される盗難情報と照合します。
- ・盗難品と判明した場合は、販売店から警察に通報し、購入経路の確認などを行う仕組みとなっています。車上荒らしで最も多いカーナビ盗難の根絶に販売店での水際作戦強化に努めています。

日刊自動車新聞より抜粋

■緊急 お知らせ

「個人様宛配達」の発送ができなくなりました。
お届け先は「会社名」でお願いします。

リノベートパーツの発送を依頼している西濃運輸 (株) から届け先が『個人様宛配達』に関しては、現行の契約運賃に加え、荷物の大きさ・重量により別途料金が加算する主旨の通告がありました。

別途加算料金は法外なもので承服できない内容ですが、ヤマト運輸・佐川急便が集荷拒否している大型荷物の個人様宛配達の多くが西濃運輸に流れた為、不在の多い個人宛配達が増大、従来から取引がある法人顧客への業務に支障が出てきているといった背景があります。

こうした状況の中、高品質で安価なリノベートパーツを皆様にお届けするためには、『個人様宛配達』の発送を中止せざるを得ません。変更後の届け先がボデーショップ・整備工場様宛であれば、従来通り発送が可能です。

■損害保険料改定で自費修理が増加! H25.4.22 日刊自動車新聞より

…保険を使いたくないというニーズが高まることは、廉価修理需要を発生させる。特に修理工場は部品交換より費用を抑制できる钣金作業での修理を得意とする事業者が多い。工賃を稼げる钣金は収益性の高さも魅力となる。さらに代理店に対して廉価な修理が可能な技術力をアピールできることも業者にとっては大きなメリットとなり「料率改定は追い風」という見方もある。

現状は「事故の抑止効果」の方が勝っていて、自損事故の減少につながっている様で、リノベートパーツの動きに変化は見られない状況です。

■ヘッドライトのコーティンググッズ 販売終了のお知らせ

これまで、ヘッドライト補修の普及、拡大の目的でヘッドライトのコーティンググッズ (サンクスブラットとその消耗品) の販売を進めてきましたが、最近では同様な商品が安価でオートアフターマーケット市場で、たくさん発売されており、当社の初期の役割は終えたものと判断し、これらの商品の販売を終了する事になりました。今後も補修技術の開発に伴い、新しい補修グッズを提案してゆきたいと考えております。